

令和6年度第1回どっぷり高知旅キャンペーン推進委員会 議事概要

日時：令和6年6月14日（金）13:00～15:00

場所：高知会館 2階「白鳳」（高知市本町 5-6-42）

《配布資料》	
委員出欠表	
配席図	
資料1	委員等名簿 新旧対照表
【報告事項】	
資料2	令和5年度の取り組み
資料3	令和5年度予算の流用について
【議決事項】	
資料4-1	令和5年度事業報告（案）
資料4-2	令和5年度収支報告（案）
資料4-3	監査報告書
資料5	会則 新旧対照表
資料6-1	令和6年度事業計画変更（案）
資料6-2	令和6年度収支予算変更（案）
資料7-1	連続テレビ小説「あんぱん」を生かした観光振興の取り組み
資料7-2	専門部会の設置について
【協議事項】	
資料8-1	どっぷりキャンペーンのコンテンツの要素
資料8-2	どっぷり商品の説明について
資料9-1	「どっぷり高知旅キャンペーン -シーズン1-」の展開
資料9-2	令和6年度「どっぷり高知旅キャンペーン」の主な取組
資料10	4年間の進め方の骨子
参考資料1	令和5年度第2回どっぷり高知旅キャンペーン推進委員会でいただいたご意見及び対応

1 開会

進行：高知県観光政策課 西村課長補佐

挨拶：どっぷり高知旅キャンペーン推進委員会 小西会長

2 委員の交代について

資料1 委員等名簿 新旧対照表

3 報告事項

進行：どっぷり高知旅キャンペーン推進委員会 小西会長

(1) 令和5年度の取り組みについて

資料2 令和5年度の取り組み

説明：高知県観光政策課 中村課長

(2) 令和5年度予算の流用について

資料3 令和5年度予算の流用について

説明：高知県観光政策課 中村課長

質疑応答（質問・意見なし）

4 議決事項

(1) 第1号議案 令和5年度事業報告（案）及び収支報告（案）について

資料4-1 令和5年度事業報告（案）

資料4-2 令和5年度収支報告（案）

資料4-3 監査報告書

説明：高知県観光政策課 中村課長

質疑応答（質問・意見なし）

第1号議案について出席委員全員の賛同を以て承認

(2) 第2号議案 会則の改正について

資料5 会則 新旧対照表

説明：高知県観光政策課 中村課長

(3) 第3号議案 令和6年度事業計画変更（案）及び収支予算変更（案）について

資料6-1 令和6年度事業計画変更（案）

資料6-2 令和6年度収支予算変更（案）

説明：高知県観光政策課 中村課長

質疑応答（質問・意見なし）

第2号議案及び第3号議案について出席委員全員の賛同を以て承認

(4) 第4号議案 専門部会の設置について

資料7-1 連続テレビ小説「あんぱん」を生かした観光振興の取り組み

資料7-2 専門部会の設置について

説明：高知県観光政策課 中村課長

質疑応答

発言：小松副会長

- ・「どっぷり」はハードルが高く、じっくり進めていくもので今すぐに商品化できるものは限られている。一方で「あんぱん」という大きなトピックが出てきたので、是非力を入れてもらいたい。
- ・「あんぱん」をきっかけに物部川エリアに来た観光客を県内全域へ広げていく取り組み

みを推進してもらいたい。「どっぷり」と「あんぱん」2つの要素を同時に進行していくのは非常に大変だが、頑張っていきたい。

回答：小西会長

- ・「あんぱん」の効果を物部川エリアから県内全域に広めていけるよう、しっかりとセールスに取り組んでいきたい。

発言：小笠原委員

- ・「あんぱん」によって地域の人々がとても盛り上がってきている。やなせたかしさんに関わりがあるのは香美市と南国市だが、香南市もこれを機に3つの市が集まって盛り上げていこうという意気込みが見られる。
- ・地域の人々の盛り上がりによって、より魅力的な博覧会になると思う。博覧会の事業は、「どっぷり」にも合う内容となっていると思うので、この機会を活用していただき、高知県全域で頑張っていきたい。

第4号議案について出席委員全員の賛同を以て承認

5 協議事項

(1) 令和6年度の取り組みについて

資料8-1 どっぷりキャンペーンのコンテンツの要素

資料8-2 どっぷり商品の説明について

資料9-1 「どっぷり高知旅キャンペーン -シーズン1-」の展開

資料9-2 令和6年度「どっぷり高知旅キャンペーン」の主な取組

説明：高知県観光政策課 中村課長

(2) 今後4年間の全体スケジュール

資料10 4年間の進め方の骨子

説明：高知県観光政策課 中村課長

質疑応答

発言：野戸委員

- ・資料10の誘致・広報事業で、磨き上げられたどっぷりコンテンツを発信していくとあるが、この先コンテンツがどのように増えていき、それらをどのようにアウトプットしていくのか。

回答：高知県地域観光課 仙頭課長

- ・年内に40商品は作る予定。コンテンツ受賞作品のほか、各市町村に照会をかけて現在、25くらい要望が出ている。それらを各市町村にヒアリングして概ね一巡したところ。来週、市町村や事業に参画いただく方を対象に勉強会を行い、それ以降、具体的に磨き上げを行っていく。
- ・一方、来年上期に向けたセールスがこの9月中旬頃から始まるので、持っている商品を10程度用意したい。それらがプロモーションにも活かされていくのではないかな。

発言：鍵山委員

- ・高知県観光コンベンション協会のインセンティブでも、皆さんの意見を聞きながら新しい「どっぷり」用の制度を検討していきたい。

発言：近澤委員

- ・私も市町村を回るのに加わらせてもらい、話を色々聞かせていただいたが、普段から県民がやっているお客様に対する接待などが「どっぷり」につながっていると感じた。それを商品化するのは時間もかかり、地域の方や観光協会、広域観光組織にも協力をいただきながら商品造成をしていかないといけない。皆さまの協力をいただき一つでも多く商品ができるようにしていきたい。

発言：小西会長

- ・言われたとおり、既存のコンテンツ・商品の中にも「どっぷり」の要素が結構ある。何が「どっぷり」なのかという部分を整理し、ガイドの皆さんに伝えてもらい、それによって観光客やエージェントにも響いていく商品の造成を行っていききたい。

発言：吉岡委員

- ・「らんまん」では、西の方はあまり影響を感じなかった。「あんぱん」の際には、西の方でももう1泊、泊まってもらうことに力を入れていきたい。地域の特色ある宿泊施設や食材を一つの商品として売り出そうと観光協会と話をしているところ。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・取り組みは行っているが、まだ知られていない既に「どっぷり」な素材が地域にはある。これらをしっかりプロモーションしていくことがもう1泊につながっていくと思うので、そのような情報も是非教えてもらいたい。

発言：水田委員

- ・来年前半の最大の追い風は「あんぱん」。これを活かして盛り上げていきたい。課題は、高知空港から物部川エリアや東部へのアクセス。物部川 DMO 協議会を中心に色々検討しているが、県のバックアップや連携もお願いしたい。
- ・先ほどもう1泊という話もあったが、その場合に西にも東にも足を延ばしてもらうためにもアクセスをスムーズにできるように考えていきたい。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・高知空港から物部川エリアへのアクセスについては、「物部川エリアでの観光博覧会」実行委員会で検討しているので、また一緒に考えていきたい。
- ・県内全域へという面では、中山間地域にたくさん行ってもらうためにも、公共交通機関での旅の楽しみ方を打ち出していきたい。また、公共交通機関を使った周遊コース等をパンフレット・WEB・動画等で紹介するなど、協力していきたい。

質問：松下委員

- ・ 県外観光客に「どっぷり」を感じてリピーターになってもらうためには、案内をするガイドが重要。ガイド養成事業の取り組みについて、現在の状況を知りたい。

回答：高知県地域観光課 仙頭課長

- ・ 今年度、ガイド人材の裾野を広げるための新たな事業を展開している。
6/30、7/1、7/2 に、3 エリアで観光ガイドの方を対象にスタートアップセミナーを行う予定。このセミナーでは、ガイドの業界に触れてみたい初めての方も対象としている。その後も9月や11月に高校生・大学生に実際のガイドの現場に触れる機会を設ける予定。また、土佐観光ガイドボランティア協会を中心に全体研修を今年度も進めていただいているところ。
- ・ 他にも「あんぱん」関連では、香美市で街中や草花のガイドだけだったところにやなせたかしさん関連の内容を加えるなど、中身をバージョンアップするサポート事業も行っている。南国市も5月以降、毎月ガイドの研修をするなど活動が非常に活発になっており、これらの取り組みを支援していきたい。

発言：小西会長

- ・ このキャンペーンを進めていくうえで、地域の想いや背景をしっかりと伝えてもらうためにもガイドの役割は非常に重要。先ほど説明したとおり、ガイドの研修をこれから進めていこうと考えているので、旅行商品にガイドを組み込んでいく取り組みをしていきたい。

発言：森岡委員

- ・ 今年度、県下33のガイド団体のうち30団体から現状報告があり、13名の会員が増えていた。実働会員で言うと11団体で増えていた。
- ・ 先ほど仙頭課長が説明した3日間の研修で学生を含めて新たなガイドの養成をしていく。若い世代に入ってもらうことでガイドの活性化を図りたい。

発言：久保委員

- ・ 当社ではアンパンマン列車を運行している、PRなどできる限りのことはしていきたいが、ライセンス面での制約があることをご理解いただきたい。
- ・ 長期滞在・リピーターを増やすためのプロモーションに関しては、首都圏や関西でのプロモーションも大事だが、何回も来てもらうという点では、近隣県も重要。私の生活の拠点の香川では高知の情報は少ないと感じるが、高知に行ってみたいという方はたくさんいる。高知県に来るきっかけを作るという点で近隣県でのプロモーションにも今後、力を入れてもらいたい。

発言：三浦委員

- ・ 高知県内でも幡多地域は変わった歴史・文化があり、それらをPRしていきたいが、遠隔地であることが課題。広域観光組織の連携を深めていくことで色々なエリアに立ち寄ってもらい、県全体の「どっぷり」につながると思う。地域観光課にも協力いただけると広域観光組織としてもありがたい。

発言：小西会長

- ・おっしゃるように色んなエリアに立ち寄って宿泊してしてもらうことが長期滞在につながっていくと考える。広域観光組織の連携が深まるように県も取り組んでいきたい。

発言：富岡委員

- ・「どっぷり」で取り組んでいる内容は日本全国の自治体どこでもやっていることだと思うが、それを改めて「どっぷり」と言葉に具現化したことは素晴らしい。
- ・「あんぱん」を機に高知県に来られた方に県内各地を周遊してもらうため、三浦委員がおっしゃったように広域観光組織で連携した取り組みを進めていきたい。
- ・「どっぷり」商品を作ろうと域内で取り組んでいるところだが、受入体制を懸念している。この前もコンテストで選ばれた田舎寿司づくり体験のところに行ってきたが、メンバーの平均年齢が80歳を超えていた。今まで観光業をやったことがない方が「どっぷり」に関わってくると思われるので、これから「どっぷり」商品を作って売っていくときに地域の受入体制をしっかりと構築しないと色んな問題が起きる。今後、私たち地域と県と一緒に体制の構築に取り組んでいきたい。

発言：高知県観光振興部 小西部長

- ・「どっぷり」は県民の皆様と一緒に取り組んでいくものであるため、先ほど言われたような事例もこれから出てくると思われる。「どっぷり」商品を売っていくからには、受入体制はしっかりと構築していかなければならないので、県も一緒に進めていきたい。

発言：山崎委員

- ・「らんまん」の影響がまだ続いており、問い合わせも結構ある。
- ・「あんぱん」では、三浦委員、富岡委員も言われたように広域観光組織の連携が非常に重要であると考えている。県の方でも音頭を取ってもらい、広域観光組織で一致連携して「どっぷり」を推進していきたい。

発言：中村委員

- ・山崎委員の話にもあったが、「らんまん」の影響がまだ続いていると感じる。当協会への問い合わせでもかなりの頻度で桂浜、高知城と合わせて牧野植物園に行きたいと聞かれる。
- ・当協会の今年度の取り組みについて、これからの補正予算の獲得にはなるが、「あんぱん」の放送を見据えて、高知市を訪れた方に物部川エリアを周遊していただくためのデジタルスタンプラリーなどを検討中。他にも「どっぷり」の主旨でもある周遊促進につながっていく取り組みを検討しているので、各DMOと連携して進めていきたい。
- ・資料9-2のどっぷり観光商品周遊スタンプラリーについて、実施の詳細を教えてください。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・コンテストで選ばれた各エリアの上位3商品を原則対象として、体験するとスタン

プが押せ、3つ集まると応募ができるスタンプラリーを予定している。
上位商品は県外の審査員に選んでもらった本県の誇る「どっぷり」コンテンツなので、まずは「どっぷり」とはどんなものなのか知ってもらうため、これを機に県民や県外の方に体験してもらいたい。

- ・山崎委員と中村委員から「らんまん」の効果がまだ続いているという話があったが、県の方でも感じており、次に「あんぱん」でリーフレットを作る際には、牧野博士の情報を入れることも検討したい。連続テレビ小説つながりで相乗効果が出るのではないかと考えており、色々と工夫したい。

発言：松島委員

- ・いしはらの里のある土佐町石原はお客さんが来るのが好きな、嶺北エリア内でも面白い地域。嶺北エリアの一番西にあり、いの町とも近く、にこ淵から石原を経由して道の駅土佐さめうらへ人が流れて来ていることが分かっている。このような流れがあることから、先ほどから話のある広域観光組織同士の連携をもっと考えていく必要がある。
- ・「あんぱん」関連として、アンパンマン列車途中下車の旅などは企画できないか。

回答：小西会長

- ・広域観光組織の垣根を越えた周遊の取り組みは非常に大事なもので、一緒に考えていきたい。
- ・アンパンマン列車については、権利の関係でかなりハードルが高いと聞いている。何かできることがないか、JR 四国と話をし探していきたい。

発言：小笠原委員

- ・台湾の方はやなせたかしさんに親しみがあるようで、今後台湾向けの誘客をしていきたい。
- ・どっぷり高知旅キャンペーンは外国人観光客にも焦点を当てたものだと思っている。台湾以外のインバウンドの方にはどのような取り組みをしていくのか教えてほしい。

回答：高知県国際観光課 山本課長

- ・台湾以外でもやなせたかしさんの人気がある国はあると思う。アンパンマンは権利の関係で難しいが、やなせたかしさんゆかりの地やキャラクターなどをプロモーションで使っていくことを考えている。
- ・「どっぷり」は多くの外国人にしっかり伝えていき、セールスの方でもそういった商品売っていきたい。

回答：小西会長

- ・台湾以外のアジアの国々においても日本のアニメの訴求力は高い。四国ツーリズム創造機構では四国一体で欧米も含めてプロモーションをしているので、その中で「やなせさんのふるさと」という形のプロモーションができないか検討していきたい。

発言：佐々木委員

- ・東部観光協議会では、観光庁の地域観光新発見事業で「ゆずツーリズム」が採択され、今年度のメインとして取り組んでいく。ゆずにテーマを当てて、ゆずで「どっぷり」ということで、宿泊・食・体験というように、周遊型の商品を磨き上げ、今年度中に商品として販売までつなげていきたい。
- ・先ほどアンパンマン列車のハードルが高いという話があったが、ごめん・なはり線のキャラクター列車だと少しハードルが下がると思うので、是非活用してほしい。ごめん・なはり線活性化協議会の助成金もあるので有効活用してもらいたい。

発言：古谷委員

- ・観光事業者として県外の方とよく話をするが、「どっぷり」というキャッチコピーが良いと言われる。「どっぷり」には、ハマってしまう、浸ってしまうという心情的な部分が非常に含まれていると思うので、この部分をどんどん表に出していきたい。
- ・高知県にはこれから4年間、非常に良い風が吹いてきている。これを上手く活用して観光客を増加させるように皆で頑張っていかなければならないと考えている。
- ・ゴールデンウィークやよさこい、イベントの際に宿が取れないということをよく言われる。平準化を狙ったイベントの打ち方を考えてもらえれば年間を通して高知県への観光客が増えてくるのではないかと。
- ・観光客はノープランの方やしっかりプランを立てて来られる方など色々な方がいる。ノープランの方に対しては、ここでこんなことをしていると教えてあげると動いていくと思う。宿泊施設や地域住民も含めてどこでどんなことが起きているかしっかりと認識し、一人一人が観光大使のような気持ちで臨んでいただければ、この4年間は実りのある期間になると思うので、皆で頑張っていきたい。

回答：小西会長

- ・4月にどっぷり高知旅キャンペーンを東京でエージェント向けのセールスで披露した際には、非常に良い取り組みであるとの声もいただいた。その分、中身をしっかりと詰め込んでいかなければならない。
- ・古谷委員が言われたとおり、宿泊施設や観光事業者の皆さんに観光客へ次はここに行ったらいいというように、お互いを案内し合うような取り組みも進めていければと思っているので、また協力をお願いしたい。

発言：仙波委員

- ・ゴールデンウィークはコロナ禍が明けて大分お客様が戻ってきた。6月に入ってから復調傾向が顕著になってきている。
- ・アニメツーリズム協会にアニメ聖地88に選んでもらって数年活動に参画して感じたのは、作品それぞれに熱烈なファンがいる一方で、アニメや漫画全般が好きだから全ての作品を見に回りたいという方がどれほどいるのかということ。牧野先生の「らんまん」の時の植物といったような皆が親しみを持って回ってみたいと思うコンテンツとは種類が少し違うかもしれないと感じている。県内の他のエリアと連携できる素材をどのように提供できるのかが我々の財団の1つの宿題である。
- ・NHK財団との連携の中で、「やなせたかし展」を令和7～8年度の2年間を通じて、全国8カ所ぐらいを回していこうと考えている。各会場2ヵ月ぐらいの会期でそれ

ぞれPRができると思うので、そこで高知に関心を持ってもらえるようにPRしていく必要があると思っている。

発言：森岡委員

- ・高知県観光ガイド連絡協議会としては、「あんぱん」の効果を物部川エリアだけに留まらず県内に広げていきたい。また、年に1回開催している全体研修交流会では、やなせたかしさんに関係する方に講師をしていただき、県内の団体で何かつながりをもてないかと考えている。

発言：渡部委員

- ・ミュージアムネットワークでは、この10年ぐらい観光と組んできて毎年何らかの企画を行ってきた。県はガイドの拡充に取り組んでいるが、勉強しないとガイドができないというのはハードルが高い。そこで、今年度はタクシー・宿泊施設・道の駅・観光案内所などの観光の最前線にいる人が高知の歴史・文化を簡単に話せるような小ネタ集の制作を企画している。コンセプトは、高知の当たり前の風景の中から何らかの楽しみや面白さを見つけてもらうこと。小ネタ集によって、点の観光から面の観光へ広げていきたい。
- ・今年度は「歴史」と「食」に関するもの、来年度はもし予算がもらえるのなら、「自然」と「体験」に関するものを県の観光コンセプトと連動しながら実施したい。そのため、6月から7月に広域観光協議会の方々の色んな知識や観光客の動きなどの聞き回りをしたいので、協力をお願いしたい。

発言：庵原委員

- ・ガイドの養成がこれから必要となってくるが、なかなか難しいと感じていたところ、渡部委員の話はすごく面白いと思った。観光に近いところで仕事をしている方が小ネタ集などを持ちながら、ガイドを兼ねていくようなことが今後、必要になってくるのではないかと感じた。
- ・「らんまん」では西の方はあまり効果がなかったという話もあったが、私が活動している嶺北もそれほど効果を感じなかった。例えば、龍馬パスポートで「あんぱん」に関連した期間限定スタンプを県内各地で押せるようにすれば各地域に足を伸ばすきっかけになるのではないか。

回答：小西会長

- ・龍馬パスポートとのコラボレーションは、「どっぷり」も含めて高知県観光コンベンション協会とも話をしながら、何らかの形でやっていきたい。

発言：上村委員

- ・ここ数年、高知市内中心に宿が少ないという声をたくさん聞くようになった。一方でエビデンスを見ると人口規模が同じくらいの県庁所在地の中で高知市はそんなに稼働率が高いわけではない。何が起きているかという繁忙期に観光客がたくさん来ている。
- ・例えば、よさいこいは元々観光客が多いお盆の時期にあるが、これでは絶対部屋が

足りない。宿泊料金が上がって、宿が取れないなど観光客にとっても良くないので、閑散期対策を考えてもらいたい。また、イベント等の地域への分散も考えてもらいたい。高知市で大きいイベントをやっているときに他のエリアで別のどっぷり高知旅のイベントを行い、宿泊客を分散できるとよい。

- ・資料9-2にアンテナショップ等と連携した広報について記載がある。別のところでも県がWEBマーケティングを力強く進めていると聞いており、期待している。一方、旅行会社との話で近畿から高知にどのような交通手段で行けばいいのか分からない方が一定いると聞いた。アンテナショップに来ていただいた方に対しては、モデルコースを示すなど、丁寧な対応をお願いしたい。

回答：小西会長

- ・閑散期対策は非常に重要だと考えており、今年度も冬場のイベントを計画している。分散については平日に宿泊すると特典があるような施策を議論していきたい。
- ・アンテナショップと連携した広報では、色々な交通手段を丁寧に案内していきたい。

発言：友田委員

- ・コンテストに多くの応募があったことは高知県にとってすごく良いこと。これから商品になったりブラッシュアップされていくことを楽しみにしている。
- ・資料では県外向けのプロモーションの取り組みが記載されていたが、県民にはどのようにPRしていくのか教えてほしい。このキャンペーンは県民皆で盛り上げていくものだと思うので、まず県民を盛り上げるために何をするのか気になった。
- ・県内で色んなおきゃくがあると思うが、このキャンペーンの中でどのように使っていくのか教えてほしい。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・県民へのPRは、例えば動画では観光地を巡るだけではなく、その道すがら色々な方に声をかけて回ることなどによって、こんなどっぷり高知旅をしているということを残していきたい。
- ・また、県民向けコンテストも開催したいと考えている。昨年度は観光協会や広域観光組織から推薦してもらった形だったが、7月からは県民に自分の地域や生まれた市町村の誇れるおすすめのを投稿いただこうと思っている。それを特設サイトの地図上でプロットしたりジャンル別にまとめたりして見せることで、行政ではアプローチできない個人店や面白い人などのロコミ的なものを扱えるのではないかと考えている。これらを発信することで高知の「どっぷり」がより深くなっていくのではないかと。
- ・おきゃくに関しては、今でも酒蔵を巡ったり、そこで杜氏さんと一緒におきゃくをする商品もあるので、しっかり売っていきたい。地域の祭りなどでもおきゃくがあればパンフレットでPRするなど、県内各地のお酒やおきゃく文化をしっかりと発信していきたい。

回答：小西会長

- ・コンテストで県民にどう参加してもらうかは大きな課題であり、新たな挑戦となる。7月からの県民向けコンテストによって県民へのPRに加え、キャンペーンへの

参画を促していきたい。

発言：小松副会長

- ・資料 8-1 と 8-2 では、どっぷり商品とはこれまでの観光商品に「どっぷり」ポイントを加えたものという分かりやすい表現になっているが、既存の商品に少しのプラス要素を加えたものもどっぷり商品であると説明してほしい。地域の暮らしぶりや想いを伝えるといったことの説明を商品の方に対しても加えてほしい。
- ・周遊とエリアについての意向調査があったが、その部分の説明がなかった。「どっぷり」が周遊になり、エリアは中山間であるといった説明を加えてほしい。
- ・前回のコンテストでは、幡多広域観光協議会から期日に間に合わないなどの理由で出せなかった商品があったため、次回は出していきたい。
- ・資料 10 の「どっぷり」の観光商品の部分について、目標を 4 年間でならずような表現ではなく、数字などで各年毎の深度をもう少し細かく示してもらいたい。

回答：高知県観光政策課 中村課長

- ・資料 8-1 では、商品の方にスポットを当てているので、今度は長期滞在や周遊促進につながるようにパンフレットなどでしっかりと見せていきたい。
- ・資料 10 の受入事業では 4 年間で 1 つの矢印で記載してしまったが、1 年間に 8～10 市町村ぐらいの商品を造成していき、4 年間で必ず各市町村に 1 つは「どっぷり」商品ができるように計画している。

6 閉会